



Dr 高橋のアレルギー相談室

Takahashi Clinic

花火、殺虫剤、香水などの刺激性物質を吸わないようにすることや、ストレス、過労をさけることも大切に

Dr 高橋のアレルギー相談室

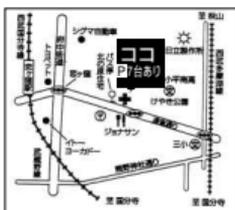
ぜんそく(喘息)の治療はどうすればよい?

前号で、ぜんそくは「慢性的な気道の炎症」であること、そしてその重症難治化をふせぐためには発症早期・軽症のうちから気道炎症を鎮めてしまいう治療が重要とお話ししました。では、具体的にどうしたらよいのでしょうか?

気道を刺激する物質をさける

まず、気道を刺激して炎症を悪化させるものをさけるのが基本です。原因となっているアレルギーを皮膚反応や血液検査などで調べ、何に対してアレルギー反応を起こすかが分かれば、それをさけることがぜんそくの改善につながります。日本ではほこりの中のダニやペットの毛やフケがアレルギーとなっている方が多く見られます。そこで、こまめに掃除をする、布団をよく乾燥させてそれに掃除機をかける、ペットは室内で飼わない、といったことが必要です。次に、かぜをきつかけにぜんそくが悪化することが多いので、日頃かたうがいなどでかぜを予防することが大切です。また、タバコ、大気汚染が悪いのは当然として、線香、

高橋内科クリニック(内科・呼吸器科・アレルギー科)
東京都国分寺市東恋ヶ窪6-2-6 チサカ第1ビル1階
TEL: 042-322-7676 FAX: 042-322-7686



小平市基本健康診査も受けられます。

診療時間 AM 9:00 ~ 12:30 PM 3:00 ~ 6:00
休診日 木曜午後・土曜午後・日曜祝日

医学博士 高橋 寿保

す。あとで述べますがぜんそくの抗炎症治療が不十分な場合、飲酒や運動気象の変化で発作が起こりますので注意しましょう。さらに、約1割の患者さんでは、痛み止めや熱さましの薬によって悪化し、中には命にかかわる大発作にいたるケースもあるので気を付けましょう。
ぜんそくの薬物療法は大きく2つに分けられます。「気道の炎症をおさえる薬(抗炎症薬)」と「せまくなった気道をひろげる薬(気管支拡張薬)」で、とくに抗炎症薬が発作の予防薬として治療の基本になります。その代表が吸入ステロイド薬です。
(次号では薬物療法を中心に述べます)